

第 12 回 滝川市こども・子育て会議(書面会議)

■待機児童の発生 に関して

いつも大変お世話になっております。

滝川市としては、初めての「待機児童」が発生する見込みとなったが、預ける場所の確保ができ回避できる事と知り大変安堵いたしました。

ただ、これから先の事を考えますと 子どもの出生数が減ってくるので子ども側(預ける側)からすると所属先を選ばなければ、待機児童となるのは、免れるのではと予想されます。しかし、受け入れる幼稚園側からすると 受け入れ体制が、ぐらつき始め何かしら改善策を講じなければ、待機児童をあえて作ってしまう恐れがあるのではないかと毎年、毎年、切実に感じているところです。

大きな理由としては、慢性的な保育者不足です。 保育者不足の為、クラス減、利用者定員減も視野に入れなくてはならない状況にあるという事です。このまま保育者不足の状況が続くとあり得る話です。

また、保育者不足に加えて、入園してくる幼児が、以前にも増して支援が必要なお子さんや、いわゆるグレーゾーンといわれるお子さんの数が多くなってきており、一人担任では、難しい状況です。複数の担任、あるいは加配がスタンダードにならなくては、きめ細やかな保育活動がなりたたなくなってきました。

先日、本園に 3 月に転入の問い合わせが数件ありましたが、驚いたのは、新入の年少でもないのに排泄の自立ができていないという事や何らかの支援が必要という幼児の割合の多さでした。 加配のパートの先生も中々 集まらない状況です。

また、新制度にはいり処遇改善や保育に専念できるような環境づくりをしていってはいますが、なかなか幼稚園教諭になりたいと思う人材がいないところもありますし、新卒で入っても長続きしない状況があります。

また、ある養成校の就職フェスタに参加したところ 学生からの質問は、「滝川市の園に就職したら滝川市からの援助は、ありますか？」というものでした。

実際そこに居合わせた他の施設の方が説明している話の内容は、「〇〇市から住宅手当が 4 万です。」と説明されて勧誘していました。所属する施設の給与の他に 4 万円です。大きいです。 他市町村が保育者確保に何らかの取り組みをしているので最初からふるいにかけられている状況です。本当に保育者不足が続くと保育の質の担保は、おろか保育自体が、危ぶまれ滝川市の幼児教育は、どのようになっていくのだろうと不安になります。

滝川市には、養成校がありますが、入学時に助成金をだして滝川市内に就職するという様に繋げるという取り組みをなされていると思いますが、本園にめばしい実習生が来た時には、もうすでに社福に決まっているなどと話を聞くこともあります。

なんとかこの保育者不足の問題を滝川市も考えていただけないでしょうか。

種田貴志子